

【共生モデル地区（大正中津川地区）の活動報告】

四万十川支川中津川流域では、平成 25 年 8 月 23 日に流域の「大正中津川地区」と四万十町、高知県の三者で「大正中津川集落の人と自然が共生する地域づくり協定」を締結。平成 28 年 2 月には「中津川集落活動センターこだま」を開所し、こだまでの活動を中心に環境との共生をテーマにした地域づくりに取り組んでいる。

令和 6 年 1 月に第 2 期の協定期間が終了したが、これまでの活動は以下のとおり。

目標とする姿（協定第 5 条）

- 1 新たな産業や起業に取り組むことにおいて、集落の地域資源を最大限に生かす事が出来ること
- 2 交流・定住において、I ターン者だけでなく後世の世代が戻ってきたくような集落であること
- 3 福祉・コミュニティづくりにおいて、集落の住民全員が家族の様な関係で常に会話のある毎日の暮らしが実現していること
- 4 環境保全・景観づくりにおいて、循環型地域社会として持続可能な発展に期待できること
- 5 伝統文化の継承において、次の世代につながる文化や伝統を世代間で共有し新たな文化も創造すること

- （1）環境保全の取組として、森林・山村多面的機能発揮交付金（林野庁）、高知県清流保全パートナーズ協定（高知食糧株式会社）を活用し、集落周辺の水辺林の間伐やゴミの清掃を行った。また、間伐材を利用した炭焼き体験を開催した。間伐材を集落で薪や炭として活用し地域資源を生かした取組を行った。
- （2）中津川上流部で魚類の遡上阻害となっている砂防堰堤について、生態系保全の視点（生息魚類種）から魚類の専門家を講師に招いて勉強会を開催した。
- （3）久木の森山風景林の整備とトイレの管理を中津川集落で行い、文化庁の重要文化的景観に選定された地域資源を生かすため、キリンビール株式会社主催の「山の手入れ体験バスツアー」の参加者と協働し、久木の森山風景林で間伐作業、自然観察、植樹活動を行った。
- （4）十和在住の I ターン者を講師に招き、廃油を利用した石鹼作り体験を開催。全戸に石鹼を配布し、循環型地域社会を目指す取組を行った。
- （5）都市住民に、地域住民との交流を通じて、中津川の自然環境や重要文化的景観、豊かな地域資源を知ってもらうため、中津川の魅力の 1 つである「食」を中心とした交流事業を行った。
 - ・自然学校のスタッフと連携し、県外から子ども体験キャンプを受け入れ、田舎暮らし体験や郷土料理を提供し交流を図った。

- ・どろんこ運動会を開催し、集落外から若年層の参加もあり地域住民と交流した。運動会後に催した懇親会を通じて、集落外の参加者と地元住民とのさらなる交流も図った。
- ・田植え&稲刈りイベントを開催した。農作業は、6月頃の田植え、10月頃の稲刈りを地元農家の人と集落外の参加者が協力し、収穫したお米は、参加者が持ち帰った。また、一部はふるさと納税の返礼品として販売、藁は幡多地域の水産業者に販売した。集落にある地域資源を最大限に活用した取組となった。
- ・流域連携（愛媛県鬼北町、高知県四万十市、四万十町、中土佐町、津野町、梶原町）のイベントである「四万十街道ひなまつり」の地域会場として参加し、地域の文化を生かした取組を行った。
- ・もみじまつり～収穫祭&音楽祭～を久木の森山風景林で開催した。
また、もみじ祭りと同時開催で4kmのコースで自然を体験してリフレッシュする「大正中津川リフレッシュウォーキング」を企画した。

（6）集落内の交流の取組として、「ひなまつり食事会」「納涼祭」「敬老会」「日曜モーニング」等を開催した。

また、社会教育活動として警察官や保健師を講師に招き、地域のための勉強会等の地域内交流活動を月1回程度行っている。地域内の交流活動を通して、集落の住民全員が家族の様な関係で常に会話のある毎日の暮らしを目指す取組を行った。

（7）定住促進の取組として、四万十町が整備した「お試し滞在施設」を活用して、移住希望者の定住に繋げる取組を行った。

（8）地域情報の発信のため、「中津川通信」（名称変遷：なかつかかわらばん→中津川通信）を累計60通発行した。

また、集落活動センターでフェイスブックを立ち上げ、イベント周知や地域の情報発信を強化する取組を進めた。

四万十町と高知県は、広報紙、ケーブルテレビ、フェイスブック等でイベント情報の発信を行った。

（9）中津川の歴史、文化を次世代に引き継ぐため、高知大学の支援も得ながら、中津川在住のアマチュア写真家による大量の写真をネガフィルムからデジタルデータに変換し、後世への記録保存へと繋ぐ取組を行った。